



モモとひな祭り モモ(桃)

バラ科 スモモ属 耐寒性落葉低木～小高木
原産地 中国 花期 3月～4月

モモ（桃）はバラ科のスモモ属の耐寒落葉高木です。果実を食用する果樹品種のモモ（桃）と花の鑑賞を目的とするハナモモがあります。日本には弥生時代に渡来したとされ、平安時代には、3月3日の桃の節句を祝うようになり、モモの花が鑑賞されるようになりました。今回はモモ（桃）とひな祭りについての関連を調べてみました。

鑑賞用の花桃としては、江戸時代に盛んに品種改良が行われ、現在の園芸品種も江戸時代に作出されたものが多くあります。

モモの花は、3～4月頃、葉に先立って咲き、花色は通常は桃色で一重の5弁花で、雄シベが多数あるのが特徴です。鑑賞用に改良されたハナモモ（花桃）は、八重咲や白色、桃色などで咲き方や花色が豊富にあります。葉は花よりやや遅れて茂り、細長い形で互生し、縁にはギザギザがあります。ハナモモ（花桃）も7月～8月頃に実がつけますが、小さく硬いため食用には適しません。



花桃 矢口桃

実桃は果実を食用とするために栽培される品種で通常「桃」と呼ばれるのはこちらで花色は桃色で、桃色の語源にもなっています。

桃という漢字は「木」と「兆^{きざし}」から構成されています。「木」は木そのものを意味します。

「兆」は、古代の占いで亀の甲羅のひび割れを表しており、実が割れる様子や魔除けの力を持つ桃の木を象徴しています。古代中国では、桃の木には邪気を払う力があると信じられていました。魔除けや健康、不老長寿の象徴とされ、

多くの詩文や古事にも登場します。また、「もも」という読み語源には諸説あります。「真美（まみ）」が転じた説、実が赤いことから「燃実（もえみ）」の意味、実が多く成ることから「百（もも）」、または「実々（みみ）」が転じた説、毛が生えていることから「毛々（もも）」などがあります。一般に言われる桃源郷の由来は中国では桃は古くから、不老不死を授ける力が秘められた仙木、仙果とされており、「平和な不老長寿の理想郷」という意味の「桃源郷」の語源にもなっています。そして、

ひな祭りの起源となった「上巳^{じょうし}の節句」は、古代中国で旧暦3月の最初の巳^みの日に行われていた厄払いの行事が起源です。それが日本に入り、平安時代に「流し雛」として定着しました。当時の流し

雛は草木や紙でつくった人形（ひとがた）に自分の厄^{やく}を移し、川に流す「流し雛」になりました。その風習は鳥取地方の一部に、今も伝統として受け継がれています。そして江戸時代に女の子の成長を祝う「ひな祭り」として現在に至っています。段飾りは平安時代の貴族の婚礼儀式を表したもので、そのため最上段には新郎新婦に当たる男雛、女雛が飾られ下段に連れた護衛や官女などが続き、五人囃子は婚礼のめでたい席を盛り上げるための音楽隊として参加しているのです。旧暦の3月は桃の花の咲く時期と重なり、桃の持つ魔除けや健康を願い、女の子の節句「ひな祭り」の花として菜の花などと生けられ、「桃の節句」とも言われています。（文・写真 村尾 廣子）



流し雛

3月の花とみどりの講習会

【ブルーベリーの育て方】

日時：3月14日（土）10時～12時
場所：花とみどりの相談所
内容：育て方を学び、苗を植え付けします。
講師：棚田一治さん
費用：1,600円
定員：24人
申込：3月7日（土）
9:15～ 電話可 先着順



【デンドロビウムの育て方】

日時：3月21日（土）10時～12時
場所：花とみどりの相談所
内容：デンドロビウムの育て方を学びます。
講師：奥井里実 同所相談員
費用：1,000円
定員：24人
申込：3月14日（土）
9:15～ 電話可 先着順



豊中緑化リーダー会写真展

開催日：令和8年3月12日(木)～13日(金)
時間：午前10時～午後4時
会場：豊中市役所第二庁舎1階ロビー
内容：豊中緑化リーダー会の活動写真
地域の共同育苗グループの花壇写真
「緑化リーダー養成講座」のご案内
*ポストカードのプレゼント(数に限りがあります)



花とみどりの相談



相談時間は、火曜日・木曜日の午後1時から4時30分までです。
電話による相談も行っています。
《3月の休所日》 毎週の日曜・月曜日と20日(金)です。



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曾根南町1丁目4番1号（豊島公園内） 阪急宝塚線 曾根駅南 約500m

TEL 06-6863-8439

FAX 06-6863-3638